MRI 用造影剤使用に関する説明と同意書

検査日時　　年　　月　　日　　時　　分

1.　造影検査とは

造影剤を血管内に投与することで、病変の存在や性状がより詳しく分かります。

2.　造影剤の副作用・危険性

以下のような副作用が生じる可能性があります。

- 軽症（1.4%）　　発疹、瘙痒感、くしゃみ、嘔気、嘔吐、頭痛など
- 重症（0.0052%）血圧低下（ショック）、痙攣、呼吸困難、意識消失、腎不全など
  非常にまれですが、死亡例の報告もあります。

副作用のほとんどは造影剤使用直後から１時間以内に起こります。まれに数時間から数日後に現れることがあり、遅発性副作用といいます。

以下の既往のある方は副作用の生じる頻度が通常よりも高くなると言われており、代替手段を考慮あるいは造影検査を行わないことがあります。

- 今までに MRI 用造影剤による副作用を起こしたことがある方
- 喘息の方
- 透析中の方、腎機能障害のある方など

3.　血管外漏出（注射漏れ）

造影剤を勢いよく注入するために血管外に漏れることがあります。通常は時間が経てば自然に吸収されます。鉄造影剤が漏出した場合は色素沈着が残る場合があります。

4.　造影剤を使用しない場合

同意いただけない場合は造影剤を使用せずに検査を行いますが、正確な診断ができず病気がわかりにくい場合があります。

説明日　　年　　月　　日
担当医師　　科　氏名
看護師　　氏名

厚生連上越総合病院　病院長殿

私は造影剤を使用した検査を受けるにあたり、その目的や起こりうる副作用について十分理解したうえで了解しました。

年　　月　　日　患者署名
代筆者　　（続柄　　）

＊同意書に署名された後でも、同意を撤回することは可能です。不明点は担当医師にお問い合わせください。